



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのファイナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい

投信 なるほど
リップパー

9月までの運用成績

好成績の勝因、実は「IT頼み」

2020年9月までの投資信託の運用は、短期的には株式型のほとんどがコロナショックから立ち直ったようです。株式市場が安値を付けたのは、中国が2月で他の国では3月中旬。純資産残高が10億円以上ある、上場投資信託(ETF)以外のオープン投信について、過去6カ月の運用成績を投資対象の分類ごとに単純平均すると、ほとんどがプラスとなりました=大きい表。

長期的にはIT(情報テクノロジー)関連株投信や中小型株投信が好成績です。「中小型株」とは、発行済み株式数や時価総額が比較的小さい株式のこと。そのうち投信が運用対象にするのは、成長が見込まれる企業で、多くが東証マザーズやジャスダックに上場する銘柄です。

と、ここまでは「中小型株

投信」の説明。小さい表に並んだ、日本株で運用する好成績の投信に発見がありました。それぞれの投信の9月末時点の組み入れ銘柄の多くが情報・通信業なのです。

「DIAM新興市場日本株ファンド」の情報・通信業の組み入れ比率は63.49%、「東京海上・ジャパン・オーナーズ株式オープン」は、サービス業、小売業に続いて情報・通信業が11.7%です。

「野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)」は言わずもがなで、半導体関連株が98.7%。「マネックス・日本成長株ファンド」も情報・通信業の組み入れ比率は42%です。投資対象が広く「日本株」「日本 中小型株」の投信も、現時点では「業種別 IT」に分類される投信と似た運用といえるでしょう。

■投信主要分類別の平均騰落率 (2020年9月末時点)

投資対象 (リップパーによる分類)	過去6ヵ月 (%)	過去5年 (%)	
株式	業種別 IT(情報テクノロジー)	50.01	126.95
	日本 中小型株	40.99	83.14
	インド	33.08	4.64
	米国	29.20	69.20
	グローバル	29.11	36.16
	グローバル 新興国	25.44	25.65
	グローバル 除く日本	24.79	45.15
	日本	23.77	34.48
	業種別 ヘルスケア	22.38	26.51
	業種別 公益	6.06	17.26
債券	豪ドル	15.69	6.27
	米ドル ハイイールド	11.82	8.22
	グローバル 社債 日本円	9.88	9.96
	グローバル 日本円	4.38	4.18
	日本円	-0.24	4.37
ミックスアセット	日本円 積極型	14.39	22.42
	日本円 バランス型	11.07	16.81
	日本円 フレキシブル型	10.31	12.62
リート	日本円 安定型	6.65	10.57
	グローバル	11.51	-2.73
	日本 北米	10.89	20.61
		9.98	3.32

純資産残高が10億円以上の上場投資信託(ETF)、オルタナティブ型を除くオープン投信について集計。騰落率は分配金(税引き前)を再投資したとして計算。ミックスアセットは、株式の割合が65%以下を積極型、35%~65%をバランス型、0%~35%を安定型としている

■運用成績トップ5 (2020年9月末までの5年間)

順位	ファンド名	騰落率(%)
1	DIAM新興市場日本株ファンド(アセットマネジメントOne) = 申込受付を停止中	280.79
2	東京海上・ジャパン・オーナーズ株式オープン	197.75
3	UBS中国A株ファンド(年1回決算型)	185.22
4	野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)	174.29
5	マネックス・日本成長株ファンド(アセットマネジメントOne)	172.47

純資産残高が10億円以上のオープン投信で、上場投資信託(ETF)とオルタナティブ型を除く。騰落率は分配金(税引き前)を再投資したとして計算